

十代藩主 伊達斉宗

仙台市博物館 学芸企画室 明石治郎



父の死後に誕生

寛政八年（一七九六）九月一日、八代藩主 斉村の次男が江戸郊外大崎の下屋敷に誕生しました。幼名徳三郎、のちの斉宗です。斉村の急死後一カ月あまり、半年早く生まれた異母兄の政千代（のちの周宗）が九代藩主に就任する半月前のことでした。

生母は側室の喜多山信。斉村生母の正操院（喜多山郷子）の姪で、斉村とはいとこです。信は斉村死後の伊達家に留まることを許されず、徳三郎が三歳の時に中級旗本の正室となりますが、翌々年に死去します。徳三郎も兄と同様、父母の顔を知らずに成長しました。

徳三郎には家の存続のため、兄のいわばスベア（予備人員）としての役割がありました。そして、文化六年（一八〇九）七月から病床の兄の代役を務めることになり、文化九年二月七日には藩主の座に就きます。兄の死が公表される二カ月あまり前のことでした。この間、徳三郎は徳純、さらに宗純と改称しています。そして、同年三月十五日に江戸城で元服を遂げ、將軍徳川家斉の一字を授かって斉宗と名乗ります。

斉宗の藩政

一七歳で新藩主に就任した斉宗は、その

年八月、早速初入国が許されました。仙台領では一六年ぶりの藩主入国とあって、士民挙つての歓迎でした。また、文化一一年（一八一四）二月には、紀伊徳川家の当主 治宝の長女で一つ年上の諸姫を正室に迎えます。病弱だった周宗とは異なり、仙台藩主らしい姿を示しつつあった斉宗には大きな期待が寄せられていたようです。

しかし、そもそも厳しい財政のなか、文化十一年五月に幕府から日光山輪王寺の修営役が課されて借財を重ね、藩士に手伝金上納を命じて返済に充てるなど、苦しい藩政運営でした。一方で、藩校養賢堂の新築、医学校の設立など、文教面での充実は行われています。

斉宗の藩政はわずか七年でした。仙台在国中の文政二年（一八一九）三月に病を得て、五月二四日に二四歳で死去したからです。嗣子のなかつた斉宗は、死の直前、まだ三歳の長女芝姫に一閔藩主家出身の田村顕嘉（のちの一二代藩主宗義）を婿に迎える跡継ぎとする願いを幕府に提出しています。

女性たちからの手紙

文化二年（一八〇五）に観心院（七代藩主重村正室）が死去したのち、伊達家の奥方の中心となったのは正操院でした。諸姫が正室となり、奥方の主となったのちも、

正操院は後見的立場でさまざまな助言・教訓を与え、若い斉宗を支えました。それは、現存する一〇〇通に及ぶ正操院の手紙に表れています。彼女は、かねてからの望みをかなえ、文化一四年九月に住居を仙台へ移しましたから、当地で愛孫の死に臨むことになりました。

諸姫の手紙は正操院の倍近く残されています。そこからは、斉宗が在国中に江戸の諸姫とお互いの動向・近況を頻繁に知らせ合っていたことや、諸姫が紀伊徳川家と伊達家をつなぐ大切な役割を果たしていたことがうかがわれます。

そのほか、側室たちや、大名家・伊達家一門に嫁いだ伯叔母たちからの手紙があわせて九〇通あまりと、残されている斉宗関係文書の九割近くが女性たちの手紙で占められています。これは斉宗に際立った特徴といえます。

母を知らない斉宗でしたが、女性たちに支えられた藩主という側面をもっていたといえそうです。

※本稿では仙台市博物館の学術研究機関たる立場から歴史上の人物名に敬称を付しております。



諸姫が在国中の斉宗に宛てた手紙 絵柄の用紙も珍しくはありません 仙台市博物館所蔵

特別展 古代アンデス文明展

いよいよ9月30日(日)まで!

紀元前3,000年頃から16世紀のインカ帝国の滅亡まで、アンデス地域で盛衰を繰り返したナスカ、モチェ、シカンなど代表的な9つの文化を中心に、アンデス文明の全貌に迫ります。

詳しくは… 古代アンデス文明展 仙台 検索

【観覧料】一般・大学生1,500円、高校生800円、小・中学生600円  
 ※10名以上の団体は各100円引き。※その他各種割引あり。詳しくはお問合せください。  
 【開館時間】9:00~16:45(入館は16:15まで)  
 【会期中の休館日】9/3(月)、9/10(月)、9/18(火)、9/25(火)

仙台市博物館 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡)  
 SENDAI CITY MUSEUM TEL:022-225-3074 ▶ツイッター @sendai\_shihaku



(上)象嵌のマスク(モチェ文化) ペルー文化省・国立博物館所蔵  
 (下)金の合金製のシカン神の仮面(シカン文化) ペルー文化省・国立シカン博物館所蔵



マチュピチュ遺跡(ペルー)